

第 5 回 小瀬川河川整備懇談会 (議事要旨)

開催日時：平成 27 年 2 月 23 日 (月) 15:00~17:00

場 所：大竹会館 2 階 大集会室 (広島県大竹市)

出席委員： 河原 能久 (広島大学大学院工学研究院教授)
関 太郎 (広島大学名誉教授)
永井 明博 (岡山大学大学院環境生命科学研究科教授)
内山 誠一 (中国経済連合会専務理事)
畠中 昶臚 (大竹市文化財審議会委員長)
藤野 完二 (環境省登録環境カウンセラー)
村上 恭祥 (元広島県水産試験場長)
森江 堯子 (NPO 法人国際環境支援ステーション副理事長)

8 名出席

小瀬川河川整備計画スケジュール(案)について

- ・委員全員意見なし。

小瀬川水系河川整備計画 (原案)【国管理区間】に関する意見集約および小瀬川水系河川整備計画 (案)【国管理区間】について

【委員】

- ・対比表、70 ページの 38 行目~39 行目の意味が分かりにくい。「防災訓練」と「地域住民」が並列になっている。防災訓練と河川清掃等についてということであればわかる。文章が気になった。

【座長】

- ・「河川清掃等の実施」といったような言葉がないということか。

【委員】

- ・そうである。文章が抜けていると思う。

【座長】

- ・事務局で確認し対応をお願いしたい。

【座長】

- ・対比表 66 ページの従来のレーダと XRAIN の差が見えない。XRAIN の解像度が高いことがアピールできる拡大画像にできないか。
- ・対比表 43 ページの図で 10k、4.5k 付近は $800\text{m}^3/\text{s}$ を割っている。堤防が山付けでいらないということによいか。

【事務局】

- ・資料-4 の 18 ページには山付けを記載している。

【委員】

- ・対比表 61 ページ、「伐採を行う必要があります」を「行います」に修正しているが、現時点で実施していることなので「行っています」の方が良いと思う。
- ・今年度、小瀬川の植物に関することでアドバイザーとして現地や報告書を見た。河道内の樹木の生長が早く、部分的に伐採しているが追いつかない状況であった。その要因は弥栄ダムができて流量が減ったことが大きいと思う。特に小瀬川はダムから海までの距離が短いため、その影響が大きいのではないかと思う。計画的な伐採をやっても追いつかないぐらい樹木が繁茂していることを申し上げておきたい。

【座長】

- ・今後も伐採を継続するような文章にしていただきたい。樹木については、伸びる状況を確認いただき、将来の計画に積極的に活かすよう検討していただきたい。

【委員】

- ・意見対応資料の 16 ページに住民の減少をテーマにした質問が出ている。小瀬川流域の特に上流の人口減少はすさまじい状況である。飯山地区は無人地区になり、栗栖から上流はどんどん減っていく。今年は連続して小瀬川流域で 3 校が閉校になっている。対比表 70 ページ以降の連携や水源地域ビジョンの推進等の項目で、流域人口の減少に伴う資源環境の激減ということを前提に検討していく必要があるのではと思う。

【座長】

- ・中山間地に関係なく、あちらこちらで問題になっていることだと思う。整備計画は 30 年というスパンがあるため、どこかに文言を追加し注意を促す形にして欲しい。

【委員】

- ・ 8 ページに基本高水のピーク流量 $3,400\text{m}^3/\text{s}$ を上流の洪水調節施設で $2,400\text{m}^3/\text{s}$ カットできるとのことになっている。流域の中にはダムが 3 つくらいあると思うが、その内訳を書いて欲しい。また、40 ページでもどこのダムでどれくらいカットできるのかというのが分かれば良いと思う。

【座長】

- ・ 40 ページの洪水調節流量 $2,000\text{m}^3/\text{s}$ の中身が分からないかということである。

【事務局】

- ・ 確認させていただきたい。
- ・ 対比表 45 ページに図面の記載ミスがある。大竹側の築堤の記載が一部漏れている。

【座長】

- ・ 原案から大きく変わった箇所は、気候変動に関する部分の追記、中市堰の水質や操作に関する部分、プレジャーボートの不法係留に対する指導に関する部分である。住民の方々の意見はこれからの河川整備の中でも注意しながら進めていくことで対応したいと思う。
- ・ 最終的には事務局でもう一度文言を練って、修正版を私の方で最終的に確認させていただき、案として公表することにしたい。

小瀬川水系河川整備計画（案）【国管理区間】における費用便益分析について

【委員】

- ・ 便益比の値は、高速道路や新幹線をつくるという標準的な大工事の例と比べて良いか。

【事務局】

- ・ 人口の多いところの事業は B/C が非常に高くなり、人口の少ないところは低くなる傾向がある。事業間での比較ではどの事業も同じような傾向を示す。特に環境整備事業は、当地の場合人口の多いところの事業となるため少し高い傾向にある。

【座長】

- ・ 税金 1 億円かけてどのくらい利益が得られるかが B（ベネフィット）なので、1 を割ると税金を使う理由はないという話になる。
- ・ 費用対効果の計算は算出方法が統一されているが、小瀬川の地域特有のものを考慮する必要がある場合は見直しということもあるかもしれないが、多くはマニュアルどおり計算していると思う。

【委員】

- ・決められた方法に基づいて計算されているということで、何ら異論はない。ただ、事業費の出方が凸凹しており、現在価値の計算上4%という高い金利で割り戻すため、後ろの期間に高い事業費を設定すると、割戻し金額が大きくなることがあるため、注意が必要である。事業費の支出は計画に基づいて記載されているということによろしいか。

【事務局】

- ・そうである。

【委員】

- ・問題ないということだが、現在価値の割引というのは、金額の置き方、高い金利で変化していくということだと思っていただきたい。

【座長】

- ・高潮については1/100だけ計算しているようだが、確率規模別に被害軽減額を計算していないのか。

【事務局】

- ・洪水、高潮それぞれ確率規模ごとに計上している。

【委員】

- ・社会情勢がこれから大きく変わり、少子高齢化、人口減少ということが出てきている。そうすると、この事業で人的被害の発生が少ないあるいは小さいというそういうことが起きると、事業の進捗というのは後回しや遅れるということがあり得るのか。

【事務局】

- ・財政力という問題と、そのときの災害がどこで起こるかというのは非常に密接に関連している。災害が起きたところを優先し、予防保全的な部分になかなか予算が回らないような仕組みになっている。例えば、この小瀬川の流域でしばらく災害がないという状態が続けば当然優先順位は低くなる。ただ、基礎的な部分（例えば河川管理等）の必要な予算は確保できるとは認識している。

【座長】

- ・当面5年間の実施内容に対しては、河口のところで浸水するのは上流域で氾濫し下流に流れていくということか。5年後の浸水状況を見ると、高潮堤防は完成をするということだが、浸水するという事は、もう少し上流のほうから越水して、それが下流に流れて

いって浸水するというシナリオなのか。

【事務局】

- ・当面 5 箇年の事業については河口からの進捗を図る。上流で氾濫すれば下流のほうに浸水が伝達してくる。

【委員】

- ・今回は小瀬川 59km のうち弥栄ダムから下流が対象となっている。一番問題を抱えているのが弥栄ダムより上流だと感じている。河川全体 59km の河川の健康をどうみるかということが必要になってきている。心の隅に置いていただきたい。
- ・岩国市では住民人口は減ってきているが、昼間の人口は逆に増えている。働きに来てい
る人が増えている。おそらく、米軍基地の移動の関係で今後も増えてくると見込まれて
いる。その影響が出てきているのが、錦川沿いと小瀬川沿いにバイクや自転車で来てい
る観光客で、外国人が増えている。この計画の中ではテロに対することは一切記載され
ていないが、この河川は米国が関わっているという影響が出てくる可能性は否定できな
いと思う。そのようなことが起きていることをどこかに考えていただけたらと思う。

【事務局】

- ・我々は数値としては統計データしか見ないので、幅広く観光客の入り客等の数値を見て、
事業の評価を本来すべきであろうと思う。そういった知恵も最近必要になってきている。

【委員】

- ・私が意見を申し上げたのは、玖島川の栗谷町のコンクリート橋の件、それと、元町 4 丁
目の本流と薬師川と関ヶ浜川が合流する地点の護岸がまだ完全に整備できていない件で
ある。私は元町に住んでいるため気になっている。これから 30 年にわたってのこの行政
活動の中で、できるだけ早くここも見ていただけたらなと思う。
- ・私は歴史をやっており、常に皆さんに川を愛そうもっと川に気を持っていこうと、皆さ
んと勉強をしている。今後も広く皆さんに小瀬川を伝えていきたいと思う。

【委員】

- ・国の管轄ではないかもしれないが、人口減少あるいは高齢化、過疎化、そういうことか
ら、地域のコミュニティの衰退というのは目に見えている。河川愛護をどういうふう
に進めていったらいいかということも課題として盛り込んでいただきたい。地域の防災力、
共存、あるいは自助とか、災害時の対応の能力も低下している。そういうところで全体
をもう少し皆で河川を整備して、守って愛していこう、触れ合っていこうというところ
を盛り込んでいただきたい。

- ・ダムから上流の管轄でないところやダムの水質、環境について、ダムができて20数年になり、ダムの水質も悪くなってきている。他のダムよりは水位の移動があり、水は動いているが、上流域から入ってくる水が悪い水である。住宅環境がまだ浄化槽に頼っている。そういうものも入ってきて、富栄養化現象が出てきて、渇水時には大変な状況になっているかと思う。地域の上流の関連の自治体にも多く働きかけて、そういうことも改善してダムの水質、そういうものも守っていこうということを謳っていただきたい。

【座長】

- ・小瀬川河川整備計画の治水事業と環境事業について、2つとも妥当と判断してよろしいか。
(委員の賛成により同意)
- ・両事業については妥当と判断する。

以上